

かみいち総合病院改革プラン評価表(経営効率化指標)

1 財務に係る数値目標

主な数値目標	平成29年度	平成30年度				令和元年度		状況報告	評価委員の 評価・指摘事項
	実績	計画値	実績値	自己評価	評価委員	計画値	実績値		
経常収支比率(%)	94.9	99.0	95.6	B	B	99.6	【収支改善に係るもの】 ・経常収支比率は前年度に比較して約0.7%改善したものの、計画値を下回るものであった。		
医業収支比率(%)	88.1	92.0	88.4	B	B	92.0	・医業収支比率は、前年度に比較して約0.3%改善したものの、計画値を下回るものであった。 平成30年7月より在宅療養支援病院の認可を受けた。今後は地域包括ケア病床を取り入れることで増収を図る。		
不良債務比率(%)	▲ 1.9	0	▲ 0.3	A	A	0	・マイナスは不良債務がないことを示している。		
医業収益対診療材料比(%)	5.5	5.8	5.3	A	A	5.7	【経費削減に係るもの】 ・材料費については、プロポーザル入札の結果、業者が変更となり、納入価格の見直されたことで効果が見られた。		
医業収益対薬剤比(%)	10.1	11.0	8.6	A	A	10.8	・薬剤費は平成30年4月の薬価改定により価格が引き下げられたこと、高額薬剤(化学療法)の使用料減により計画値を大きく下回った。		
医業収益対委託比(%)	12.4	11.7	12.3	B	B	11.7	・委託費については、前年度に対して減少したが、医業収益の減により、相対的な計画値を達成できなかった。		
医業収益対職員給与比(%)	66.5	63.1	67.7	B	B	62.6	・給与比は、医業収益の減に加え、救急外来業務の運営形態見直し等による給与費の増により、前年度実績から1.2%増となった。		
後発医薬品使用割合(%)	83.9	85.0	89.3	A	A	85.0	・後発医薬品への切り替えは目標値を達成しているの で今後、維持が重要である。平成30年度より使用割合が85%に引き上げられたことから目標値を見直しとした。		
1日平均患者数(入院)(人)	142.3	152.0	145.3	B	B	153.9	【収入確保に係るもの】 ・平均入院患者数は増加したものの計画値までは達成できなかった。		
1日平均患者数(外来)(人)	465.1	489.2	440.2	B	B	491.0	・外来患者数は、前年度から減少し計画値までの達成はできなかった。		
患者1人1日当たり診療収入(入院)(円)	34,205	34,492	33,856	B	B	34,625	・患者1日当たりの診療単価について、入院では精神科病棟の延べ患者が増え回復期リハビリテーション病棟の延べ患者が減ったことにより1人当たり349円下がっている。 また、精神科病棟の利用率の向上は、神経精神科医の増によるものである。		
患者1人1日当たり診療収入(外来)(円)	10,256	10,455	10,526	A	A	10,464	・外来では1人当たり270円上がっているが、これについては、在宅療養支援病院の認定を受けたことにより、より質の高い医療を提供した結果である。		
病床利用率(一般)(%)	76.2	81.8	76.5	B	B	82.9	・前年度より病床利用率が上がったものの、計画値までは達成できなかった。		
病床利用率(回復期)(%)	73.6	80.0	70.3	B	B	80.0	・前年度より病床利用率が下がり、計画値を達成できなかった。		
病床利用率(精神)(%)	60	68.0	68.5	A	A	71.0	・前年度より病床利用率が上がり、計画値を達成した。		
常勤医師数	26	27.0	24.0	B	B	27.0	【経営の安定に係るもの】 ・常勤医師数は、2名の退職により減少し、目標を達成できなかった。 ・入院患者対応が可能な医師の確保が必須である。		
医業未収金残高(千円)3月末時点	28,725	30,000	28,944	A	A	30,000	・医業未収金は、計画を達成しているが今後も権発生後1年以上の未収金の縮小を図っていく。		
現金保有残高(千円)	371,578	400,000	350,897	B	B	400,000	現金保有残高は、前年度を下回り、計画値から49,103千円の減となった。		

2 医療機能に係る数値目標

主な数値目標	平成29年度	平成30年度				令和元年度		状況報告	評価委員の評価・指摘事項
	実績	計画値	実績値	自己評価	評価委員	計画値	実績値		
救急車受入件数	463	550	481	B	B	550		【医療機能・医療品質に係るもの】 ・救急車の受け入れ件数は、前年度に比較して増えているが計画値を達成していない。 ・手術件数は、前年度と比較して整形外科で25件増加したものの眼科で68件の減、外科が22件減少した事で計画を達成していない。 ・紹介率、逆紹介率については、前年度を上回ったものの計画値を達成できなかった。 ・紹介率を高めることは、入院患者数の増加につながるため、地域医療連携室を中心として紹介患者の確保を図る。	
手術件数(人)	703	800	627	C	C	800			
紹介率(%)	24.7	28.0	27.1	B	B	29.0			
逆紹介率(%)	15.9	19.0	18.2	B	B	20.0			
在宅訪問診療件数	903	720	1044	A	A	730		【安心な老後をささえる病院】 ・在宅関連の数値は軒並み著しく伸びており、高齢者が安心して暮らせる地域づくりとして在宅医療の需要は今後も増え続けると言える。 但し、在宅医療を支える医師は不足しており、今後はどのように在宅医療に対応する医師を確保するかが第一義となる。	
在宅復帰率(%) (回復期)	88.6	80	92.7	A	A	80			
分娩件数	99	120	83	C	C	120		【命産んで育む病院】 ・産科の分娩件数は昨年と比較して16件の減であった。出産可能人口減少の中で分娩件数を増やすため、町と連携した施策が必要である。 ・産婦人科医師を非常勤医師を含めて2名体制にしている。産んで育む上市を守るためにも体制の充実を図りたい。 ・母乳外来件数は、昨年と対比して58件の減であった。減少の要因は、専門知識を有する助産師の退職によるところが大きい。	
母乳外来件数	105	120	47	C	C	120			
外来患者満足度%	78.1	85.0	76.7	B	B	85.0		【その他】 ・年1回の満足度調査で評価の低い項目に対して見直しを行い、満足度を高める方策を図る。 ・相談件数に関しては、昨年度と横ばいであった。 ・ナイトスクールに関しては、町民の医療・健康に対する意識向上や、病院スタッフと地域住民の意見交換等を行うためにも定期的な開催を実施する。 ・認定看護師の充実に向けて、認定を活かせる体制づくりを図る。	
入院患者満足度%	86.4	85.0	89.2	A	A	85.0			
患者窓口相談件数	2,554	1,400	2,553	A	A	1,400			
ナイトスクール実施件数	5	6	5	B	B	6			
認定看護師数(人)	10	12	10	B	B	12			

(注) 達成状況欄は、A:目標以上 B:一定の実績(8割以上) C:実績不足 により評価票1の数値を自己評価した

かみいち総合病院改革プラン 評価表 平成30年度分

取組項目	番号	内容	指標	目標値 平成30年度	実績値 平成30年度	自己評価	評価委員	目標値 令和元年度	全体計画	実績及び成果等	評価委員指摘事項等
① 収入増加・確保対策	1	入院外来収益の目標収入額	診療報酬	3,332,217千円	3,101,514千円	B	B	3,374,208千円	・平成28年度 医療収益計 2,974,968千円(実績) ・平成29年度 医療収益計 3,118,227千円(実績) ・平成30年度 入院医療収益計 1,913,908千円(計画) 外来医療収益計 1,247,907千円(計画) その他医療収益計 170,402千円(計画) ・令和2年度 医療収益計 3,413,909千円(計画)	平成30年度の延べ人数について前年度対比で、外来が6,066人下回ったものの入院で1,120人上回った。外来の科別で見ると内科で891人の増であったが、外科・小児科・眼科・整形外科で述べ患者数が大きく下回った。全科での1人1日平均診療収益が270円上がったが、外来述べ患者の減が大きく影響している。 入院では整形外科・神経精神科の延べ患者が大きく上回り、眼科・血管外科が下回ったが、全体の延べ患者の増により増収となっている。 入院収益1,795,819千円 外来収益1,128,556千円 その他 2,030千円	
	2	病棟薬剤師配置による目標収入額 (薬剤指導管理料算定回数増による増収)	診療報酬	14,000千円	13,939千円	B	B	14,000千円	病棟薬剤師業務配置加算(係数割戻し) 収入額 令和2年度 5,000千円(計画) 薬剤管理指導料 収入額 令和2年度 9,000千円(計画)	病棟薬剤業務実施加算 3,935千円 薬剤管理指導料 10,004千円 薬剤管理指導料等については、前年度より20%増加した、これは算定率向上に取り組んだ成果であったが目標値には達しなかった。 511,088.470 × 0.0065 = 3,322,075円 出来高613 × 1,000円 = 613,000円 薬剤管理指導料① 1,927件 × 3,800円 = 7,322,600円 薬剤管理指導料② 825件 × 3,250円 = 2,681,250円	
	3	管理栄養士配置による目標収入額	診療報酬	3,000千円	3,046千円	A	A	3,000千円	栄養食事指導料 収入額 H28 2,541千円 H29 2,469千円 ・令和2年度 外来・入院栄養指導 3,000千円(計画)	外来初回に関しては、昨年度より減となった、回復のために医師からのオーダーを増やす必要がある。2回目については管理栄養士の積極的な指導を行ったことから増となっている。 入院に関しては、前年度と同様となっている。 外来初回2,600円 × 151件 = 392,600円 外来2回目2,000円 × 542件 = 1,084,000円 入院初回2,600円 × 485件 = 1,261,000円 入院2回目2,000円 × 154件 = 308,000円	
	4	リハビリテーション実施による目標収入額	リハビリ料収入額	186,500千円	179,084千円	B	B	209,000千円	同規模の病院(病床200床未満)の療法士1人1日当たり平均単位数(ベンチマーク)13.7単位であることから、目標単位数を14単位と変更した。 H30年度以降計画 運動期リハ45,600単位 × 1,850円 = 84,360千円 脳血管疾患リハ41,230単位 × 2,450円 = 101,012千円 がんリハ550単位 × 2,050円 = 1,128千円 計186,500千円(計画)	平成30年度実績 脳血管リハ 19,740単位 × 2,450円 = 48,363千円 運動器リハ 44,921単位 × 1,850円 = 87,995千円 がんリハ 388単位 × 2,050円 = 795千円 廃用リハ 17,620単位 × 1,800円 = 31,716千円 摂食機能療法6,528単位 × 1,850円 = 10,194千円 視能訓練 10単位 × 1,350円 = 7千円 リハスタッフ1人当たり実施単位数を18単位として設定していたが、平均単位数(ベンチマーク) + αの14単位を目標と変更した。 今年度の療法士1人1日当たり平均単位数は15.4単位であった。 (経営支援システムより算出)	
	5	健診・ドック利用者の拡大	収入増加策	80,000千円 (年間健診センター利用額)	92,410千円	A	A	80,000千円 (年間健診センター利用額)	健診センター収益計 平成28年度 平成29年度 令和2年度80,000千円(計画)	前年度より2,261千円の減ではあるが、目標額を上回っているが減少傾向とならないよう注視したい。 30年度実績(1年当たり) 通常健診センター 89,070千円 土曜日ドック 3,340千円	
	6	1年以上未収金残額の逦減	未収金徴収	2,000千円	1,384千円	C	C	2,000千円	1年以上の未収金に対する徴収額 令和2年度2,000千円(計画)	徴収専門員による未収金回収は生活困窮者の分納額減少により前年を下回っている。 平成25年度 2,285千円 平成26年度 3,273千円 平成27年度 3,100千円 平成28年度 1,881千円 平成29年度 1,752千円 平成30年度 当院の督促(会計担当) 628千円 徴収専門員の配置 602千円 未収金回収業者の導入 154千円	

(注) 達成状況欄は、A: 目標以上 B: 一定の実績(8割以上) C: 実績不足 により自己評価した

取組項目	番号	内容	指標	目標値 平成30年度	実績値 平成30年度	自己評価	評価委員	目標値 令和元年度	全体計画	実績及び成果等	評価委員指摘事項等
② 経費削減・抑制対策	1	SPD・共同購入による経費削減	医療材料費	5%削減(平成29年度ベース)	5.8%削減(平成29年度ベース)	A	A	7.0%削減(平成29年度ベース)	平成30年度 診療材料定数品削減率 5.0%(平成29年度ベース) 令和元年度 診療材料定数品削減率 7.0%(平成29年度ベース) 令和2年度 診療材料定数品削減率 9.0%(平成29年度ベース)	定数品納入額 平成29年度 82,997千円(ベース) 平成30年度 78,196千円 削減額 4,801千円	
	2	時間外勤務手当の抑制 (実績比毎年2%減 下記数値は手当合計額)	人件費	▲1,460千円	22,832千円	C	C	▲1,917千円	毎年2%ずつ時間外手当の削減 特に医師、看護師の負担軽減を鑑みた人員配置等により削減を目指す 毎年 実績対比 2%減(計画)	【平成30年度残業実績】 医師計 42,938千円(昨年 36,951千円) 看護師計 38,826千円(昨年26,976千円) 医療技術職計 9,542千円(昨年6,136千円) 事務職計 4,543千円(昨年 2,954千円) 合計 95,849千円(昨年73,017千円) 約22,832千円残業が増額 医師、看護師及び医療技術員の減少による影響や、救急外来の運営形態の見直し等によって、全職種の時間外手当の金額が増加した。	
	3	院外処方発行率向上 90%以上	医療材料費	平成29年度対比 削減500千円	平成29年度対比 1,324千円削減	A	A	平成30年度対比 削減額500千円	院外処方の発行率を向上することで、院内処方を減らし、薬品費を削減する(薬品費削減額ベース) H28以降 1,000千円(院外処方箋発行率 90%以上)	平成28年度 83.0% 平成29年度 84.4% 平成30年度 84.2% 院外処方せん発行率 84.2%と昨年と横ばいであった。	
	4	ジェネリック薬品の採用率 60%以上(数量ベース) (25年度～27年度継続目標) H25 5,000千円 H26 3,000千円 H27 1,000千円 H28 500千円 H30 500千円		平成30年度は、薬価基準改定による購入額の減に加え、外科入院患者の減による薬品の減、院内処方箋の発行枚数削減により約57,731千円の削減としている。	平成28年度 500千円 82% 平成29年度 500千円 84% 平成30年度 500千円 89%						
	5	業務委託の内容及び金額の見直し(経費削減プロジェクトの推進)	経費	29年度対比 2,000千円削減	29年度対比 3,199千円削減	A	A	30年度対比 2,000千円削減	・SPD業務委託費の見直し ・医療機器メンテナンス費の見直し ・建物総合管理業務委託の見直し等 前年度対比2,000千円削減(計画)	委託業務前年度対比 SPD業務委託費:2,592千円の減 建物総合管理業務委託費:2,934千円の減 検体検査委託費:431千円の減 産業廃棄物委託費:333千円の減 医療機器メンテナンス費:4,400千円の減 その他 新元号対応改修業務委託:7,474千円の増 ホームページリニューアル:1,328千円の増 非常用発電機負荷試験:3,996千円の減	

(注) 達成状況欄は、A:目標以上 B:一定の実績(8割以上) C:実績不足 により自己評価した